エキスポーツ 2019

～くさつ・しがSDGs交流大会～

開催レポート

■ 報告書作成にあたって

「スポーツには世界を変える力がある」

故ネルソン・マンデラ元南アフリカ共和国大統領はそう語りました。そしてSDGsは「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中に作成されたゴールです。スポーツにもSDGsにも世界を変える力があるということを「エキスポーツ2019～くさつ・しがSDGs交流大会～」で証明したい、そんな思いがありました。本イベントを準備するなかで意識したのは、SDGsという一般社会にまだ馴染みのないものから、スポーツや食という普段の生活に密接に関係するものを融合させ、SDGsを分かりやすく「発信」していくことでした。そうした発信の積み重ねが、誰かの行動を変えることに繋がっていくのではないでしょうか。

最後になりましたが、本イベントには各方面から多数の方にご後援、ご協賛ならびにご協力いただき開催することができました。特に共催であるCOIアクティブ・フォー・オール拠点(立命館大学・順天堂大学)の教職員の皆様には大変手厚いご支援とご協力をいただきました。関係者の皆様にはこの場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
2019年度実行委員長　亀石 弥都

目次

■ 報告書作成にあたって　P1

■ SDGsとは・開催概要　P4

■ エキスポーツ2019コンセプト　P5

■ 共催・後援・協賛・協力団体　P6

■ タイムスケジュール/会場　P7

■ 企画当日の様子　P9-11

■ アンケート結果　P13-14

■ 関係者講評　P15

■ 今後の展望　P16

■ 2019年メディア掲載・出演 / 出版情報

概要

- SDGsとは・開催概要
- エキスポーツ 2019 コンセプト
- 団体紹介
- タイムスケジュール・会場

■ SDGsとは

Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称です。MDGs(Millenium Development Goals:ミレニアム開発目標)の後継として、2015年9月の国連持続可能な開発サミットで採択された成果文書「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットから構成され、「Leave no one behind.:地球上の誰一人として取り残さない」ことを誓っています。

▲ SDGs 17のアイコン

■ エキスポーツ 2019 開催概要

日時　2019年5月26日(日)
　　10:00~16:00
場所　立命館大学びわこ・くさつキャンパス
　　スポーツ健康コモンズ
主催　立命館大学 Sustainable Week
　　実行委員会
　　COIアクティブ・フォー・オール拠点
　　(立命館大学・順天堂大学)

「エキスポーツ」というネーミングには、多様な人々が集まる駅、スポーツのEXPO(万博)、大学らしいSDGsをExport(外に伝える)という3つの意味が込められています。人や知識・可能性が集うキャンパスで、立命館らしい形のSDGsを表現することがエキスポーツ2019です。

▲ エキスポーツ 2019 チラシ

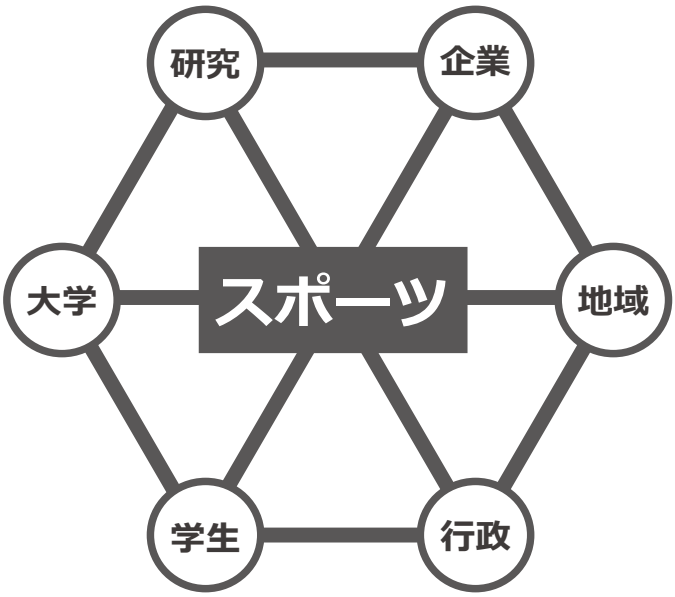
■ エキスポーツ2019コンセプト

● SDGsの取り組みにおける オリジナリティ

持続可能な社会の実現に本気で取り組む仲間を集め、Sustainable Weekで培ったSDGsネットワークをスポーツや健康でリメイクしたものが「エキスポーツ2019～くさつ・しがSDGs交流大会～」です。学生の活動や大学の研究をコーディネートする学生や教職員によるプロデュースのもと、立命館らしい実践を重視したSDGsの取り組みです。

● スポーツを通して共感が生まれる

スポーツは私たちにとって大変身近なものであり、人を集め、巻き込む力があります。オリンピックやサッカーのワールドカップはまさにその典型例です。また、スポーツから社会課題も見えてきます。環境問題や障がい者への偏見・差別など挙げると枚挙に暇がありません。そうした中で、スポーツをする、見る、支えることで同じ空間で空気や感情を共有して得た「共感」は課題解決やSDGs達成に対する志を広げ、共にSDGsに取り組む仲間を増やすことが期待できます。



▲ スポーツを通じて多様な
ステークホルダーと繋がるイメージ

スポーツをする・見る・支える
ことで、空気や感情を共有

▼

「共感」は課題解決やSDGs達成に対する志を広げ
SDGsに取り組む仲間を増やす

■ 団体紹介

【共催】

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

立命館大学びわこ・くさつキャンパスを小さな地球と見立て、学生主体のSDGs体験型イベント「Sustainable Week」の運営を行っています。他にもSDGsに関するワークショップや、企業様や行政と連携しながら企画をしています。

COIアクティブ・フォー・オール拠点

立命館大学と順天堂大学は国立研究法人科学技術振興機構の「センター・オブ・イノベーション(COI)」プログラムに、「アクティブ・フォー・オール拠点」として採択されています。「運動」と「医療」で健康を維持し、すべての人がアクティブになる未来を実現すべく、事業化を推進しています。

【後援】

滋賀県、草津市、草津市教育委員会、関西SDGsプラットフォーム

【協賛】

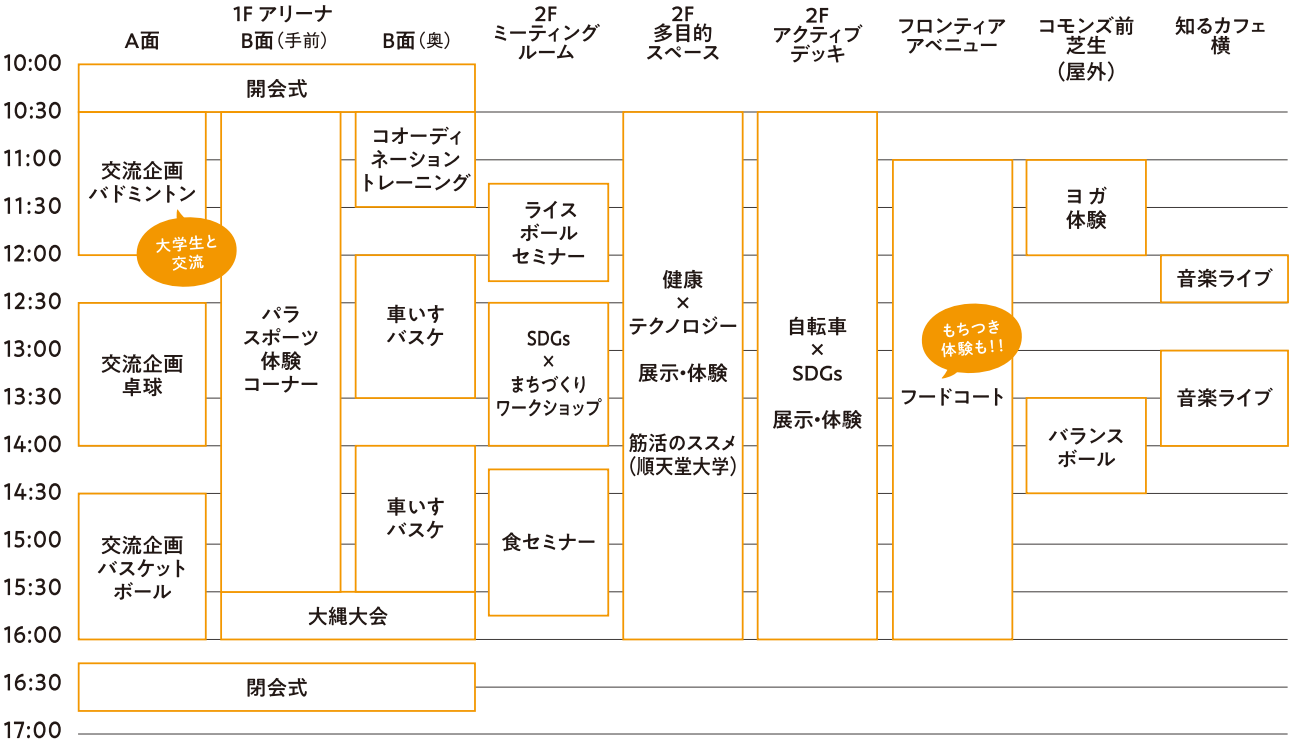
アシックスジャパン株式会社、大塚製薬株式会社、株式会社滋賀銀行、株式会社東大阪スタジアム、
株式会社ビバ、国立研究開発法人科学技術振興機構、社系研究機構、
立命館グローバル・イノベーション研究機構

【協力】

立命館大学 COMARS、TaBiwa+R、立命館大学料理サークルmeRci、立命館大学 JAZZ CLUB Σ、
立命館大学アコースティックギターサークル、NEXUS、Short Legs、いちばん星、
立命館大学卓球サークル、特定非営利活動法人アイ・コラボレーション、
滋賀県立障害者福祉センター、京都市障碍者スポーツ振興会、KYOTO UPS、
まるごとファーム株式会社、認定NPO法人くさつ未来プロジェクト
(順不同)

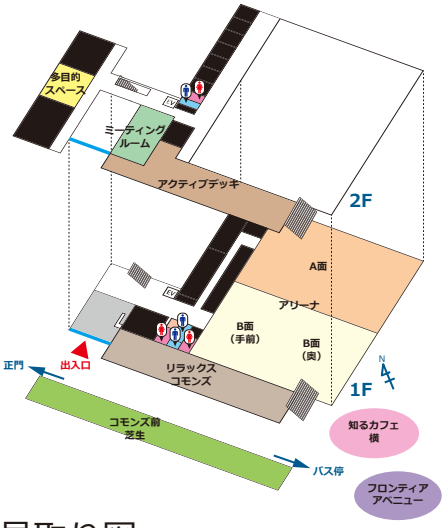
■ 企画一覧・タイムスケジュール

2019年5月26日(日)



■ 会場

立命館大学 びわこ・くさつキャンパス スポーツ健康コモンズ



▲ スポーツ健康コモンズ 外観・見取り図

開催レポート

■ 企画当日の様子

■ 企画当日の様子

(1)開会式では、亀石弥都実行委員長(左上)、仲谷善雄立命館総長(右上)、西嶋栄治滋賀県副知事(左下)、橋川渉草津市長(右下)からご挨拶をいただきました。

(2)開会式の終わりには立守ダンスを行いました。立命館守山高校OB・OGの学生が参加者にダンスをレクチャーし、にぎやかなオープニングを飾りました。

(3)滋賀県では2024年に第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会が開催される予定です。そのPRも兼ねて、ホッケーやストラックアウトといった、パラスポーツ体験コーナーを設けました。

(4)2016年のリオパラリンピックで視覚障がい者マラソンランナーの伴走者を務めた、日野未奈子様(立命館大学大学院社会学研究科２回生)によるスペシャル講演を行いました。

(5)東大阪スタジアム(株)様はヨガ体験や、子どもを対象にしたコオーディネーショントレーニングを実施しました。子どもだけでなく保護者の方も一緒に参加する様子も見られました。

(1)COIブースでは最先端の研究を楽しく体感できるコーナーが用意されました。また足腰を鍛える筋活のススメも子どもから高齢者まで幅広い年代の方にご参加いただきました。

(2)スポーツ交流企画では、バドミントン、卓球、バスケットボールを実施しました。学生たちが小学生の子どもたちと楽しく触れ合う様子が見られました。

(3)JAZZ CLUB Σやアコースティックギターサークルといった音楽サークルによる演奏は、会場に華やかさを加えました。

(4)ご後援、ご協賛いただいた団体は会場のエントランス付近でブースを出展しました。滋賀県からは国スポ・障スポの大会マスコットキャラクターのキャッフィーとチャッフィーに来ていただき、会場を盛り上げてもらえました。

(5)日常では体験できない車いすバスケには小学生だけでなく大学生の参加も見られました。

(1)バランスボール教室では、参加者定員を大幅に超えた企画となりました。親子で参加する方が数多く見られ、楽しく弾み、会話しながら運動する様子が見られました。

(2)フードコートではキッチンカーによる販売(まるごとファーム(株)様)よりキッチンカーによチキンカレーの販売(meRci)と餅つき体験・つき立て餅の販売(TaBiwa+R)が行われました。

(3)セミナーやワークショップ企画では、見識を深めるものやアイデアを出し合う企画を行い、参加者にとって学びになるコンテンツを提供することができました。

(4)立命館大学 COMARSはキャンパス内の運搬ロボットの活用の仕方を考え、実際にそのロボットを操縦体験できる企画を行いました。

(5)イベントのフィナーレとして、大縄大会を開催しました。子どもも大人もゆるキャラも参戦し、みんなで息を合わせて飛びました。

アンケート・講評
今後の展望

■ アンケート結果①

● SDGs、主催団体について

今回来場いただいた314名のうち56名の方からアンケートの回答を頂きました。

「SDGsについて知っていたか」という質問について「知っていた」と回答した人は23名(41%)でした(図1)。この結果は(株)電通の第2回「SDGsに関する生活者調査」における「SDGsの認知度は全体で16%」と比較すると、参加者の認知度は高かったといえます。これは、2017年よりSustainable Weekを地域の方も巻き込んで開催したことや、みなくさまつり・草津宿場まつりなどの地域のイベントにも積極的に参加し、SDGsを普及していたことが実を結んだのではないかと考えられます。

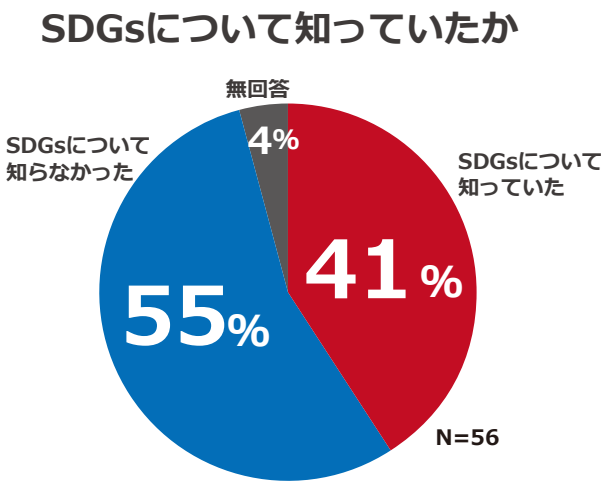


図1. SDGsの認知度

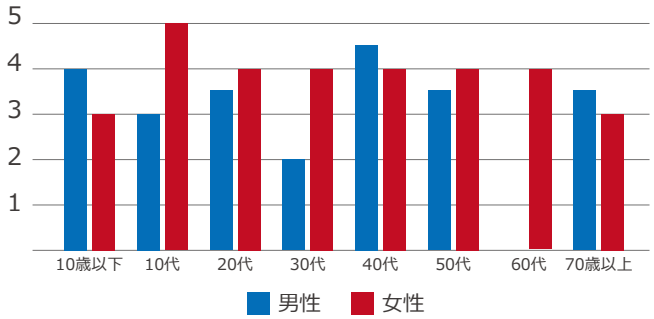


図2. SDGsの理解度

(1:よく分からなかった ～5:よく分かった)

図2~6のグラフは、回答者を年代別と男女別に分け得点の平均値を示したものです。

SDGsの理解度について、得点が低かった層に対しては、今後の企画でSDGsを分かりやすく伝える工夫が必要であるといえます(図2)。

また、アクティブ・フォー・オール、立命館大学Sustainable Week 実行委員会それぞれの取り組みについての理解も同様に、より深く理解していただくにはまだ時間がかかると考えられます(図3,4)。活動とSDGsの結びつきへの理解を促すための発信の仕方は今後に向けての課題といえます。

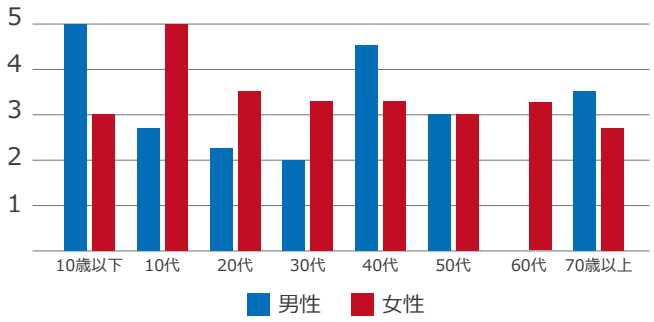


図3. 立命館大学 Sustainable Week 実行委員会の取り組みの理解度

(1:よく分からなかった ～5:よく分かった)

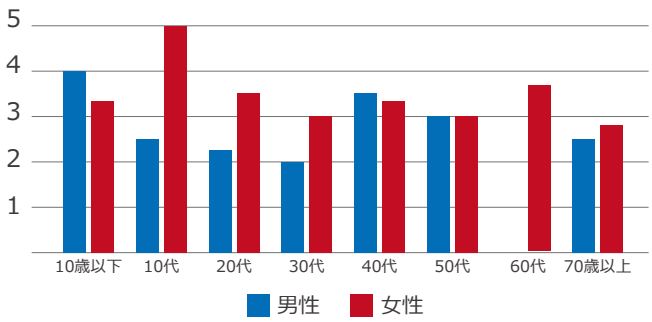


図4. アクティブ・フォー・オールの取り組みの理解度

(1:よく分からなかった ～5:よく分かった)

■ アンケート結果②

● 障がい者スポーツ、滋賀めしについて

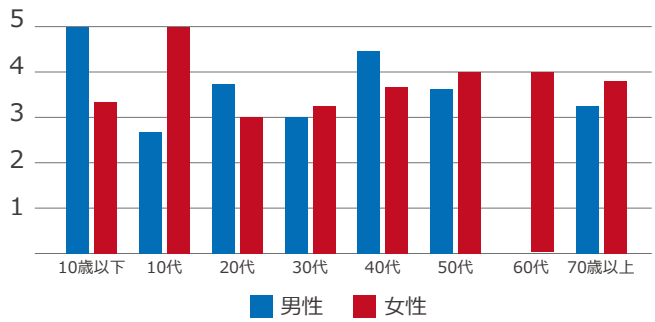


図５．障がい者スポーツの理解度
（1:よく分からなかった ～5:よく分かった）

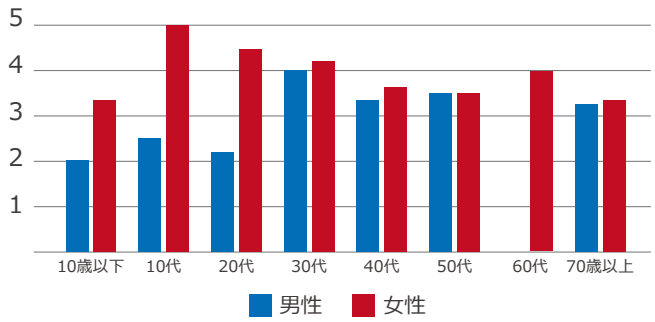


図６．滋賀めしの理解度
（1:よく分からなかった ～5:よく分かった）

障がい者スポーツの理解度は、障がい者スポーツ体験企画に参加が多かった10歳以下と10代の理解度が他の年代と比べて高いこと言えます。この結果を踏まえて、今後も障がい者との体験を通じて関わる機会を持ち続けていきたいと考えております（図５）。

滋賀めし(※)については、男性よりも女性の理解度が高いことが分かります（図６）。これは女性の参加者が多かった海老先生主催の「食セミナー」で主に取り上げたことによるものであると考えられます。滋賀めしはスーパーなどでもいくつか商品として販売されているので、今後、滋賀めしに愛着を持つ人が増えることが期待できます。

※滋賀県は、長寿県ならではの強みや滋賀県特有の食材を活かし、健康を支える食事のメニューとして「滋賀めし」を開発しています。

Column -動画制作担当者より-

今回エキスポーツ2019のPVとアフタームービーを作成させていただきました。

約1か月かけて製作したPVですが、編集過程で意識したのは、イベントの趣旨や企画の意味よりもイベント自体のイメージや雰囲気が伝わるようにすることです。スポーツがひとつ大きなテーマにもあったので、スポーツを連想させるかっこよさ、テンポ、気分を乗せる音楽を選びました。そしてイベント当日は、来場者が身体を動かして楽しんでいるところを撮影し、アフタームービーに躍動感を演出できるようにしました。アフタームービーの編集では来場してない方にも楽しそう、自分も行ってみたかったと思ってもらえるように、イベントの雰囲気そのものが音楽と映像を通して伝わるように意識しました。

これからも自分の色を出しながら、それぞれに求められる映像を作っていきたいです。

エキスポーツ2019
制作動画

https://www.youtube.com/playlist?list=PLiQAfrVZ2L43F9IX--F8aLoiJDy6EWrx4

立命館大学 映像学部 3回生
村井 ミチル 氏

■ 関係者講評

●共催:COIアクティブ・フォー・オール拠点より

我々「運動の生活カルチャー化により活力ある未来をつくるアクティブ・フォー・オール拠点」は「スポーツ・運動」と「医療」の両側面から健康を維持・増進し、全ての人々がアクティブになる未来を実現すべく、科学技術振興機構のCOIプログラムに採択されています。スポーツの観点からSDGsを実現することを目的とした「エキスポーツ2019」は本拠点の理念と非常に親和性の高いイベントでした。

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会と共催することで、地域の人々が運動を生活の一部に取り入れる契機になったと考えています。親子連れで運動を楽しむ方、筋力トレーニングに参加された高齢者の皆様、パラスポーツを実践されている皆様、こうした300人を超える方々の笑顔が印象に残っています。すべての方が楽しく運動することが、運動の習慣化につながり、「誰一人として取り残さない」というSDGsの誓約にもつながると考えています。

立命館大学 担当者

アクティブ・フォー・オール拠点では、立命館大学拠点と順天堂大学拠点がアンダーワンルーフ体制となって、運動が習慣化する未来の実現を目指しています。

今回、順天堂大学拠点から、町田修一教授、沢田秀司博士研究員、大学院生の皆様にお越しいただき、筋力を維持・向上し、ロコモを予防するための運動プログラムを披露していただきました。このロコモ予防運動プログラムは現在、千葉県を中心に地域住民へ提供・展開しており、今回、滋賀県 での実施となりました。実施に伴い、スマートウエアを用いて運動中の生体情報(心拍数等)の実測を行い、さらにはウエア機能やユーザーニーズ等について両拠点のスタッフ間で多くの意見・情報交換がなされました。イベント後のアンケートにおいて、今後も足腰をきたえたいとお答えになった参加者が多く、今後、より一層の広がりを見せるものと考えています。

順天堂大学 担当者

●協賛:大塚製薬株式会社様より

先日はエキスポーツ2019お疲れさまでした。弊社といたしましても、気温32度を超える中でボディメンテドリンクを多くの方に飲んでいただくことができて認知促進にも繋がったものと感謝しております。また同じくブース出展をされていたアシックスジャパン様やビバ様とも情報交換ができ良い機会になったと感じております。今後は更に協賛社のSDGsをはじめとした取組を紹介するプログラムの設定や、地域住民に向けた弊社の健康セミナーやプログラム開催などへの発展を期待しています。

大塚製薬株式会社 担当者

■ 今後の展望

エキスポーツ2019はSDGs普及促進の新たなモデルとなると確信しております。単発イベントとして終わらせるのではなく、来年度に立命館大学スポーツ健康科学部 創設10周年のメモリアル企画として行うなど、今後もリメイクしながら続けていくことを目指しています。さらに、今年度より始まる基礎演習Ⅱ（スポーツ健康科学部1回生の小集団演習授業）において1回生がSDGsを実践する場としても活用していきたいと考えています。

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会としてもこれからさらに「発信」を強化し、ワクワクする未来を実現するために、1人でも多くの方の行動変化を起こすことができる次世代のSDGsリーダーの育成を目指し今後も活動を続けてまいります。

引き続き、変わらぬご愛顧賜りますようよろしくお願い申し上げます。

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会 一同

■ 2019年 メディア掲載・出演

5月10日（金）　立命館大学校友会HP
　　滋賀県HP 県政eしんぶん
5月15日（水）　広報くさつ イベント情報に掲載
5月22日（水）　エフエム滋賀「Style!」に出演
5月24日（金）　えふえむ草津「イブニングロケッツ785」に出演
5月25日（土）　毎日新聞滋賀県版朝刊 地域面「スポーツを通してSDGsを知って」掲載
　　京都新聞滋賀県版朝刊 地域面「SDGsへの理解を深めて」掲載
5月26日（日）　立命館SDGs推進本部HP
　　「エキスポーツ2019～くさつ・しがSDGs交流大会～開催」掲載
5月27日（月）　京都新聞滋賀県版朝刊 地域面「SDGs スポーツ体験で」掲載
5月29日（水）　読売新聞滋賀県版朝刊 地域面「SDGs スポーツで体感」掲載
5月30日（木）　立命館大学新聞社「SDGsをスポーツで体験『エキスポーツ』開催」掲載
6月10日（月）　立命館大学HP「エキスポーツ2019～くさつ・しがSDGs交流大会～開催」掲載

エキスポーツ2019　～くさつ・しがSDGs交流大会～　開催レポート

発行日　2019年8月22日
著者　立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
編集者　亀石 弥都　(立命館大学 スポーツ健康科学部3回生)
　　岸本 俊輝　(立命館大学 理工学部3回生)
　　西野 日菜　(立命館大学 理工学部3回生)
　　中西 優奈　(立命館大学 生命科学部3回生)
　　田中 直人　(立命館大学 理工学部2回生)
　　有働 菫　(立命館大学 大学院 理工学研究科2回生)

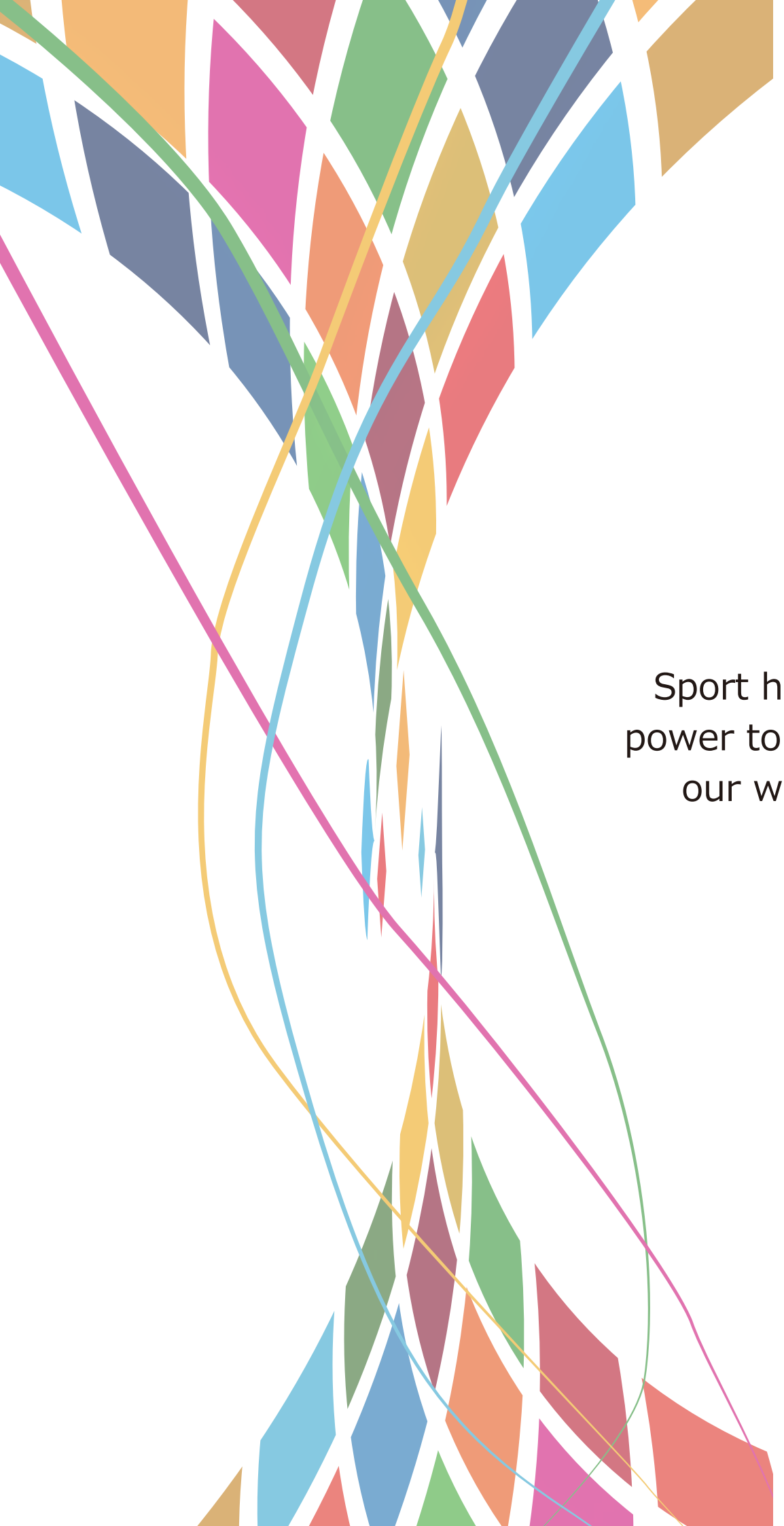
立命館大学
Sustainable Week 実行委員会
公式サイト
https://sustainableweek.org/

発行者　立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
　　〒525-8577　滋賀県草津市野路東1-1-1

※ 立命館大学 Sustainable Week実行委員会は立命館大学 学友会登録団体です。

※ 本書に記載されている所属および役職は2019年8月時点のものです。

※ 無断複写・無断転載を禁じます。



Sport has the power to change our world.